

教育広報

県北の教育

発行所

福島県教育庁県北教育事務所

福島市舟場町2番1号

電話024-523-1647

発行者 面川三雄

巻頭言

礎石の大切さ

県北教育事務所長 面川三雄

法隆寺金堂、薬師寺金堂や薬師寺西塔など、檜の巨木を使って堂塔の復興を果たした宮大工棟梁 西岡常一氏。著書『木のいのち木のこころ』の中で、子どもの頃、おじいさんによく礎石の据え方をしこまれたことが記載されている。大きな石がいくつも置いてある中の一つをおじいさんが指して、「この上に柱を立てるとしたら石をどう置いて、どこに柱を立てたらいいか考えてみい。」と。おじいさんは「石の重心というのは石の真ん中にあるんやないで。石が一番太うなっているそこにあるんや。」と。その礎石が置かれた上に柱を載せるが、自然石なので一つ一つ石の表面が違うので、石の表面に合わせて柱を削る。昔から、面倒でも柱一本ずつそれぞれ違う自然石に合わせて、柱の底を削って載せたので、法隆寺のように建物が千三百年も持つようになるとのこと。

また、兵火で消失した薬師寺西塔の450年ぶりの再建に際し、全高30数メートル、670トンを超える西塔を、30センチ高くしたとのこと。なぜ、東塔より西塔を高くしたのだろうか。

『蘇る薬師寺西塔』の著書の中で、「年々風に揺られ、地震に揺られ、加えて木材自身の乾燥の縮みによって少しずつね。二百年ぐらいうすれば、・・・露盤の高さはおんなじになる。」と。

木の性質を知っているからこそ、今ではなく、百年、二百年後の東西両塔の調和を頭に描いて、設計・建築をした。この姿勢に驚かされる。

教育も同じであると思う。児童生徒をどのように育てていくのか、社会に出たときにどのような人材になってほしいのかを考えて、教育を進めることが大事である。

今年の夏休みに開催された第60回全国高校家庭クラブ研究発表大会の「学校家庭クラブ活動」の部で、福島北高校が最高賞の文部科学大臣賞に輝いた。研究発表にあたり、発表する生徒は15分近く原稿を見ないでプレゼンテーションを行ったとのこと。発表した生徒の努力、クラブ員のチームワーク、そして、顧問の先生方の指導。生徒と教師の心が一つに結集した成果であると思う。指導者がどこまで要求するか、生徒がそれにどう応えるか。これは、教師と子どもとの信頼関係が大きいと思われる。

県北教育事務所のリーフレット「未来を拓く県北の教育」の中に、「学級・学習集団づくり」を掲げ、その中の一つに「一人一人の特性を踏まえ、個を大切にす学級経営」をあげている。学級の一人一人のよさを見つけ、いかに伸ばしていくか、教師の腕の見せどころであると思う。

8月8日に発表された全国学力・学習状況調査の中で、「自分にはよいところがあるか」との問いに、小6は77%、中3は68%と自己肯定の意識が低い。

しかし、県北域内の小学校・中学校・高等学校、そして特別支援学校を訪問し、先生方の児童生徒を思う優しいまなざしや作品への温かいコメントから子どもを大切にしようとする姿勢が感じられる。

礎石の上に立つ柱のように、あらゆる困難にも耐え、福島未来を考え、福島を愛する子ども、意欲的に福島の再生を夢見て取り組む子どもを育てるためにも、今こそ、教職員一人一人の力が必要である。

子どもたちが夢を諦めないで、夢の実現に向かって成長できるよう、温かな支援を今後とも期待したい。



「学級・学習集団づくり」を基にした「学び合う授業づくり」を目指して

～前期の要請訪問から～

夏休みも明け、充実の2学期(後期)が始まりました。この時期は勉強や運動、学校行事など子どもたちの飛躍が期待できる季節です。この時期の支援、指導がその後の子どもたちへの成長につながっていくものです。そこで、今までの学校訪問を踏まえ、いくつかの参考となる例が見られましたので紹介します。

① 実態と目標を踏まえた指導構想

各種テストや意識調査等を分析して多面的な実態把握に努め、それらをもとに一人一人に対するきめ細かな指導を展開している授業が見られました。学習のねらいと評価、まとめの整合性を図る授業を意識して指導構想が練られていました。

② 意図的な習得、活用、探究の取組み

年間指導計画で補充の時間を単元の途中で取り、TTで指導するなど基礎的・基本的な知識・技能の習得を大切にされた授業や、子どもたちが考えをまとめたり、発表したりするような言語活動を取り入れた授業が多く見られました。

③ 学びがいのある学習課題の設定

教師の一方的な課題の提示ではなく、子どもが驚きや疑問をもつ教材の提示や具体性のある学習課題の設定を意識した導入が見られました。

④ 自分の考えを持たせる場の工夫

教師が考える視点や方法を明確にしながら発問を工夫し、子どもが思考する時間を確保した授業や既習事項を踏まえて考えさせる授業が見られました。

⑤ 効果的な「学び合い」による「思考の共有と吟味」

「学び合い」を目的とせず、教師が上手にコーディネートし、「学び合い」を通して子どもたちの思考力や表現力を意図的に育てようとしている授業が見られました。

⑥ 学習内容を確かに身に付けさせる評価の工夫とまとめの充実

子どもたちの姿を具体的に表した評価を指導案等に位置付け、伸ばすための手立てを十分に考え、実践している授業が見られました。

このような授業が展開されている学級は、学級内に規律があるとともに、子どもたち一人一人が自分の考えを自由に話しやすい雰囲気があるという共通点をもっています。幼稚園や小学校低学年から「聴く」「話す」活動を重視し、お互いが尊重し合う支持的風土のある学級・学習集団を育てていきましょう。

平成24年度全国学力・学習状況調査結果を授業改善に生かすために

平成24年度の全国学力・学習状況調査の結果を踏まえて、「確かな学力」の向上のために国語、算数・数学、理科のそれぞれの教科の具体的な工夫の例を作成しました。その中から小学校2例、中学校1例を紹介します。

① 効果的な言語活動を位置付けた指導構想の工夫例(小学校国語)

「自分の考えが伝わるように書く」ことを単元の目標とする場合、テーマを提示するだけではなく、「誰に」「何のために」「どのような方法で」書くのかを明確にする。このことで学習内容が明らかになるとともに、必要感をもって情報を読み取ったり、比較したり、選択したりし、それを活かして書く力を育むことができる。

② 観察・実験の個別化を図り、一人一人の直接体験を大切にされた指導構想の工夫例(小学校理科)

「電気のはたらき」(4年)で乾電池のつなぎ方を変えて自動車を速く走らせる実験を行う場合、予想と結果の記録方法と注意点が子どもにしっかり伝わっていれば、子どもは回路と速さを比較しながら実験に熱中し、その結果直列つなぎと並列つなぎの違いを理解することができる。また、失敗を想定してやり直せる材料と時間を確保しておくことで、子どもは安心して実験に取り組み、科学的なおもしろさを体験できる。自分の手で回路をつくり、予想がはずれる体験で興味がわき、原因を考えてやり直しながら納得できる答えを見付けさせて達成感を与え、回路の学習が生活に役立つ有用性を実感させることが重要である。

③ 生徒が主体的に問題解決に取り組む課題設定の工夫例(中学校数学)

ある四角形の向かい合った辺が平行であることを証明する学習では、より生徒の視点に立った課題にするために、平行であることを証明するには平行線の性質から錯角が同じであることが分かればよいことを押さえた上で、「どのようにすれば $\angle ABC = \angle DEF$ が成り立つのだろうか」という課題を設定したい。つまり「～について考えよう」という行動目標から「なぜ～」「どうすれば～」という問いのある課題にするとともに、方向性や学習ポイントが明確な課題を設定したい。

この他にも、小・中学校別、教科別に授業改善のポイントや工夫例を紹介しておりますので、下記のURLを参照ください。

Webページアドレス <http://www.kenpoku-eo.fks.ed.jp/sidou/index.html>

～「地域で共に学び、共に生きる教育」の推進～

特別支援教育が学校教育法に位置づけられてから、5年が経過しました。各園、学校では、子ども一人一人のニーズを把握し、そのもてる力を高め、適切な指導や必要な支援を行っています。そして、「共に学び、共に生きる教育」を推進するために、教員の専門性の向上、校内支援体制の整備・充実、すべての保護者に対する特別支援教育への理解の促進などの取り組みを進めています。

特に、本年度は、「個別の教育支援計画」の作成、活用を推進しています。「個別の教育支援計画」は、支援を必要とする子ども一人一人のニーズを把握し、長期的な視点で乳幼児期から学校卒業後までのライフステージに応じた一貫した支援を行うために学校等が中心となって作成するものです。作成することにより、保護者や関係機関と情報を共有し、継続的に支援していくことができます。

☆ 県北域内の幼稚園、各学校、市町村の取組みの一部を紹介します。

幼稚園…一人一人の幼児に合わせて、絵カードやスケジュール表などを工夫しています。

小・中学校…板書やワークシート、発問等を工夫して、分かりやすい授業を実践しています。

高等学校…事例検討会や研修会を開催し、一人一人の実態把握に努めています。

特別支援学校…校内の研修や教育相談等のセンター的機能の充実に取り組んでいます。

市町村…特別支援教育に関する研修会、啓発のためのセミナーの開催、サポートファイルの作成や活用、乳幼児健診の事後フォロー教室、関係機関の連携等に取り組んでいます。

☆ 特別支援教育充実のための県北教育事務所の主な取組み

○ 地域教育相談推進事業(巡回相談)

県北域内の幼児から高校生までの、発達障がいを含む障がいのある子どもの保護者、教員等を対象として、巡回相談員が園や学校等に相談に伺います。

申し込みは、電話024-523-1653(月～金)まで、お気軽にお電話ください。

○ 特別支援教育総合推進事業

県北域内の推進地域における、特別支援教育の専門性を高める教職員の研修会、事例検討会、中央講師の招聘による啓発セミナー等を実施しています。



学校教育課(管理)

笑顔で、児童・生徒の前に立つために

☆ 交通事故の防止について

通勤途中の交差点付近での追突事故と、交差点での出会い頭の衝突事故の発生が多くなっています。原因は、ちょっとした脇見(前方不注意)や思い込みによる見切り発進等が挙げられます。追突事故は、軽微なものでも、人身事故になる可能性が多いのが特徴です。事故防止のために、

① 交差点付近では、前方を注視し、車間距離を十分に確保する。

② 「だろー運転」「たぶん運転」はせず、確認行為を確実に実施する。

③ 信号機のない交差点では、一旦停止の指示がなくても、十分な減速をして進入する。

に注意しましょう。秋分の日も過ぎ、だいぶ日が落ちるのが早くなって来ました。退勤時は、暗くなります。職場でも、声を掛け合い、無事故に努めましょう。

例年、降雪、凍結の時期に入る頃、事故が多くなります。冬期間に備え、早めの準備をしましょう。

☆ 健康に留意して勤務を

季節の変わり目です。体調に留意して勤務してください。生活習慣病で、長期の休みをとる先生もいらっしゃいます。早期発見・早期治療が大切です。人間ドッグや検診後に、要治療や要精検の結果が出たときには、必ず医師の診察を受けましょう。



★小・中学校の臨時的任用教員の情報提供のお願い★

昨年度来、講師志願者の減少から、補充教員確保が非常に厳しい状況が続いています。

先日、各市町村教育委員会を通して、各学校に講師として勤務いただける可能性のある方の調査を依頼しましたところ、いくつかの情報を得ることができました。

お忙しい中、御協力をいただき、本当にありがとうございました。

今後とも、臨時的任用教員の情報提供をお待ちしていますので、よろしくお願いいたします。

【重点目標】 学校・家庭・地域が一体となった教育の推進

- 教育基本法を踏まえ、地域の実情に応じた学校・家庭・地域の連携協力の仕組み作りを促進する。

子どもの読書活動支援ボランティアのための研修会

6月6日～8日に伊達市立図書館において本研修会を実施しました。本研修会は、地域での子どもの読書活動を推進するボランティアの資質向上を図り、学校図書館等への支援を行える人材を養成することを目的としています。研修には、県北域内の読書ボランティア33名が参加しました。



1日目には福島子どもの本をひろめる会顧問の内池和子氏の講話、2日目には県立図書館吉田久恵氏の講義、J P I C 読書アドバイザー児玉ひろ美氏の演習、3日目には松川小の佐藤文江教諭とボランティア長岡由江氏より実践例の発表、県立図書館大崎眞希子氏より講義をいただきました。最後に交流会を行い、今後の活動につながる充実した話し合いがなされました。実践的な技能を身に付けることができた有意義な研修となりました。

放課後子ども教室 第1回スキルアップ教室

県北域内では、放課後子ども教室の充実を図るため、スキルアップ教室を実施しています。7月18日に福沢たのしい教室(川俣町)において第1回の「レクリエーション教室(キンボール教室)」を実施しました。講師に福島県キンボールスポーツ協会の齋藤大介氏とボランティアの中高生を招き、実践的な研修を進めることができました。キンボールは大きな柔らかいボールで、運動能力に関係なくだれでもが楽しめるニュースポーツです。参加した方々は、キンボールを体験するのが初めてでしたが、キンボールの楽しさやダイナミックさを実感することができました。子どもたちも大喜びで、歓声が体育館中に響き渡りました。「ぜひ自分たちの子ども教室でも取り入れたい。」という声が多数聞かれました。今後も魅力あるスキルアップ教室を企画していきます。

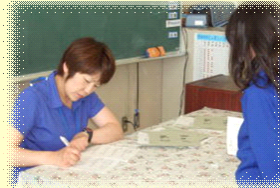


学校支援地域本部事業 <桑折町、大玉村、本宮市で実施しています>

学校と地域を結ぶコーディネーターを配置し、地域住民が学校でボランティアとして活動する体制作りをしています。県北域内では、桑折町・大玉村・本宮市で実施しています。ボランティアの活動としては、学習支援・環境整備・安全パトロール・学校行事の支援等が実践されています。



伝統文化体験学習として茶道・華道・舞踊等の達人を活用した授業(本宮市立本宮小)



家庭訪問期間中の児童への学習支援(大玉村立大山小)



「もりの案内人」を活用した図工の授業(桑折町立伊達崎小)

地域家庭教育ブロックセミナー開催のお知らせ

家庭における子どもたちの生活習慣の向上に向けて実践的に推進するために、本セミナーを通じて家庭・学校・地域の役割と連携のあり方について考えていきます。

日時：12月9日(日) 13:00～16:30

場所：福島県男女共生センター(二本松市)

対象：幼稚園・小・中・特別支援学校PTA関係者、子どもに関わっている諸団体の関係者等

内容：講演、問題提起、事例発表 ※ 詳細の案内・申込み方法等は後日お知らせいたします。